

学びは常に玉川の丘に用意されています。
通信教育部で学んだ先輩を中心に、現在の仕事や地域での活躍をインタビューします。

生涯学べ 第11回 絵本の専門美術館が果たすこと



山田実穂 ちひろ美術館・東京 主任学芸員
2011年通信教育部で学芸員資格取得

2009

『ちひろ いのちの画集』の出版記念展で関連講座を開催。平和を願って描いた絵本3冊を中心に取りあげ、時代背景と合わせて紹介した



絵本画家として知られるいわさきちひろは、子どもを終生のテーマとして描き、平和の大切さを語り続けた人でした。私がちひろの作品に出会ったのは中学生のとき。絵を描くことが好きで、美術関係の仕事に就きたいと夢見ていた私のため、母が画集を買ってきてくれたのです。

武蔵野美術大学へ進み、油絵を学んでいた頃、ちひろの長男である松本猛さんの講演を聴く機会がありました。絵筆に託した平和へ

いのちと平和の大切さを生涯描き続けた
いわさきちひろの願いを、絵を通して伝えたい。

ろは、「世界中のこども みんなに平和としかあわせを」という言葉を残しています。自身も母親として息子を育て、成長に合わせてスケッチを重ねた作品には、いのちを慈しむ気持ちが込められている。ちひろが作品を油絵のような一点ものの絵ではなく、絵本や絵雑誌として発表したのは、子育てするお母さんたちが手にとって楽しみ、一人でも多くの人に見てもらいたいと考えたから。その願いを伝えるため、当館では子ども本のイラストレーションを貴重な文化財と位置づけ、公開してきました。私は学芸スタッフとして展示の企画や子ども向けの鑑賞教室など

2010

ちひろの水彩技法ワークショップ。日本の伝統的な水墨画に通じる、にじみやかすれなどを生かした独自の技法を体験することで作品の理解を深める



2011

高齢者の方を対象に公共施設でワークショップを開催。ちひろの絵の鑑賞とともに、実際に水彩技法を使って絵を描くことを楽しんでもらった



を担当。来館者は女性が多く、赤ちゃんや幼い子ども連れでも、ともに安心して過ごせる場となるよう努めました。

やがて在職中に息子を出産し、母親となったことで、作品への理解も深まったように思います。ちひろが描く子どもや花には、いのちの輝きがある。子どものしあわせを願い、生涯かけて描き続けた姿勢にいつそう共感しました。

しかし、一方では、自分もまた絵を描きたいという気持ちが膨らんでいき、ちょうど一〇年勤めたところで退職を決意。小学生になる息子を自然の豊かな土地で育てたい希望もあり、家族で郷里の福島へ帰ったのです。

それから九年間は、自分の生き方を見つめ直す時間でもありました。四〇歳でイタリアへ二カ月間留学。好きな銅版画を学び、学生時代のように制作に没頭する日々も体験しました。再び絵を描くなかで、絵の楽しさを人に伝える仕事のほうにもやりがいを感じる自分に気づいたのです。

そんな私に、「もう一度、手伝ってみないか」と、ちひろ美術館

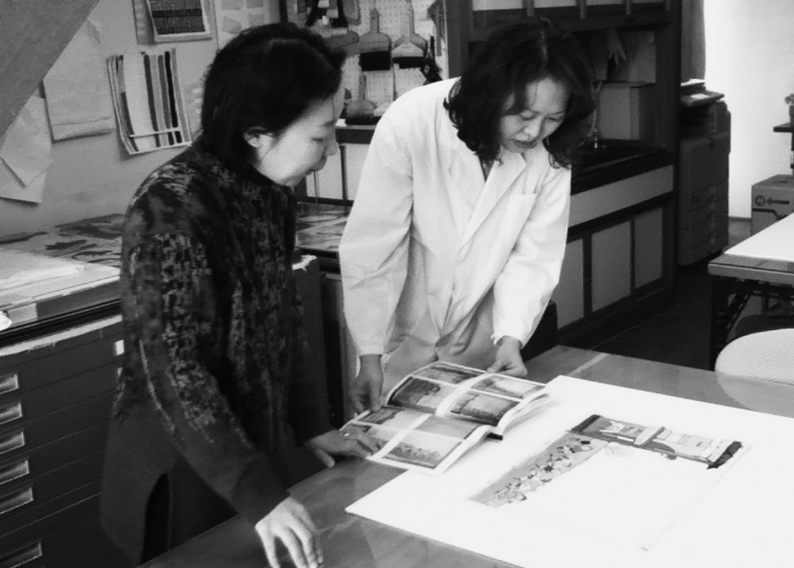
から声が掛かったのは二〇〇七年。四五歳のときでした。職員として戻るにあたり、仕事の幅を広げるためには美術全般を体系立てて学びたいと考え、学芸員の資格を取ろうと思いましたが。翌年春に玉川の通信教育部へ入学。三年がかりで資格を取得しました。

九年間のブランクを経て復帰。以前は職人のように展示会をつくりあげることが中心でしたが、イベントや講座をもつ機会も増え、子どもたちが美術館に親しめるように、ワークショップなどの参加型プログラムや小学校への出前授業にも取り組んでいます。

ちひろの絵を見せて、「この季

節はいつ頃ですか「場所はどこ？」と聞くと、いろんな反応が返ってくる。それぞれの想像を投影できるのも、ちひろの描く世界の魅力です。ちひろが得意とした水彩技法のワークショップには子どもから大人まで参加し、絵を描く楽しさを体験してもらっています。

こうした活動を通して、ちひろが絵に込めた想いを伝えたい。それは昨年三月の東日本大震災を経て、なおのこと強く感じています。いのちを慈しみ、子どもの平和としあわせを守る社会をつくる大切さ。ちひろの絵が語りかけるメッセージを、より多くの人たちに伝えていかなければと思うのです。



絵画の修復工房で傷みのひどい作品について相談している。収蔵作品をより良い状態で保存することも学芸員の重要な仕事

ワークショップとは

本来は「作業場」「工房」を意味し、最近では学びや創造、問題解決やトレーニングの手法として用いられることが多い。日本では「体験型講座」として行われ、参加者が自ら体験したり、グループで作業をしながら、学びや創造する場となっている。「ちひろ美術館・東京」は、いわさきちひろが最後の22年間を過ごし、数々の作品を生み出した自宅兼アトリエ跡に1977年に建てられた。年4回、テーマを変えてちひろの作品を紹介するほか、世界の絵本画家の作品展や企画展を開催。教育・普及を目指して、ちひろの水彩技法やもの創りを体験するワークショップや、さまざまな講師を招いて、子どもから大人まで参加できるプログラムを行っている。

東京都練馬区下石神井4-7-2 ☎03-3995-0612
<http://www.chihiro.jp/>



外観写真撮影／中川敦玲